



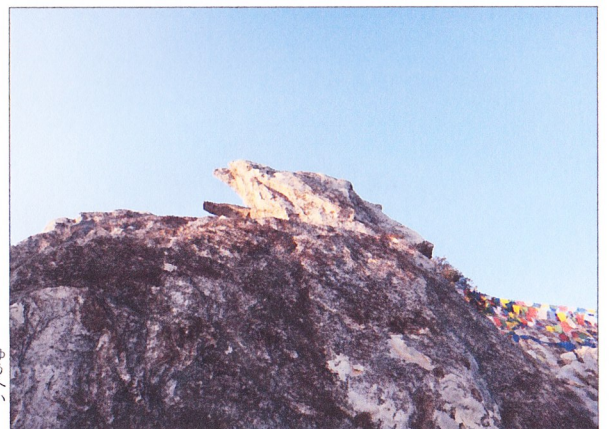
時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

今回はインド八大聖地の最後の紹介になりました、我々時宗信徒にとっては最も重要な聖地と言っても過言ではない『ラージギル』のお話です。

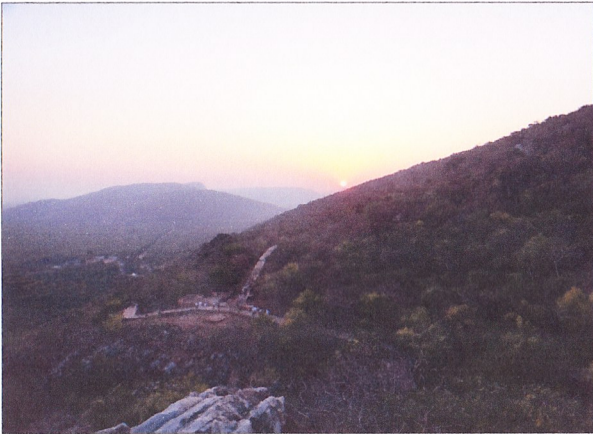
さて、まずこの町は今回の聖地巡礼の旅の中では珍しく、四方を低い山に囲まれた盆地のような所です。風景的には日本人にとって少し懐かしいような趣のあるこの町は、お釈迦さま在世時にはマガタ国という国の首都ラージャグリハ（王舎城）があった場所です。ところでこのラージギル



という町がなぜ時宗の信徒にとって『最も重要な聖地』なのかと言いますと、それはこの町を囲む山々の南東の山腹に「霊鷲山（耆闍崛山）」という山があり、その頂上部で当時説法していたお釈迦さま



が、その説法を中断して幽閉されていた韋提希夫人のもとに現れて説いた時宗根本経典の一つである「観無量寿経」の、正にその舞台だからなのです。そこに至った瞬間に私は思わずひざまずき、お釈迦



さまもご覧になったであろう夕日（左写真）の方角に合掌礼拝せずにはおられません。またその山頂部礼拝場（右頁上写真）のすぐ横には、『鷲の顔』（右頁下写真）を象ったような大きな岩があ

り、この『霊鷲山』の名の由来にも納得させられました。それにしても、ここを訪れたのは旅が始まってから7日目でしたが、私自身それまでの仏跡参拝ではその歴史的・信憑性を考察することしかできませんでした。しかしここでは、時空を超えてお釈迦さまを身近に想える神秘的霊験を感じる事ができました。僧侶たるものここに来ずして仏を語るべからず、と言いたくなるような、それほど私にとって感動的な場所でした。

◆ インドの迷信

「北枕は吉、南枕は凶」

日本では、生きている人間が就寝の際に『北枕』は凶とされていますね。ところがイ



ンドは、生きている人間が南向きに寝てはいけないそうです。南の方角には地獄があり、そちらに頭を向けて寝ると引つ張り込まれるからだそうです。同じ理由から、玄関などの家屋の入口も南向きは避けるそうです。そのため、お釈迦様のご遺体は『北枕』で安置されました。（諸説あります）